

千刈狸の呟き

ご当地のプロバスケットボールチーム、秋田ノーザンハピネッツB1リーグ残留決定おめでとう！ 苦しいシーズンだったが、よく堪え忍んでくれたと思う。創設10周年目となる令和の新シーズン（9月～）は、チャンピオンシリーズ出場という、少年少女からお年寄りまでの秋田県民の夢をかなえて欲しいものだ。

ところで、そのハピネッツは、「平成から令和へ・・・かかりつけ医を見つけよう！ 秋田ノーザンハピネッツ2019 春の医療ガイド」と銘打ったリーフレットを作成して配布した。それにはチームに協賛した医師たちの写真、プロフィールと医療機関情報などが20数名分ずらりと載っていた。お馴染みの先生達だが、知らなかった内容もあり、「へえ、この先生、〇年生まれだったのか。若いな。」などと、それなりに楽しく通覧していた。すると、ある先生のところでふと目が止まった。「あれ、この先生、千刈出身じゃなかったの?」。その先生の出身地は、遠い上方の地となっていた。ご先祖の頃からこの地域で代々医者だったはず、、、。ということは、生まれた所が違うのか。

それにしても出身地って何。れいわ狸の様に生まれも育ちも千刈だと何の紛れもなく、「出身地：千刈」となるのだが、、、。早速ネットを見た。すると、出生地、出身地、地元、の違いと使い分けについての解説があった。「出生地は生まれた土地のことで、戸籍謄本に記され、法律的にも明確なものである」、これは納得だ。「出身地の解釈には、生まれた土地、生まれ育った土地、育った土地の3パターンがあり、親が転勤を繰り返したなど、住む場所が転々としていた場合は、定義の仕方によって出身地が変わってくる」のだそうだ。

出身地には、その土地で生まれた、またはその土地の風土の影響を強く受けたという意味があり、幼少時に一番長く住んだ場所、狸格形成に強く影響を与えた土地を指すことが多いとされる。さらに、国土交通省が首都圏在住者の出身地について統計を取る際、「15歳まで育った中で最も長く住んだ場所」としたことで、これを定義とする向きもある。しかし、明確な定義はないのが現状と言える。したがって、生まれた土地を出身地とするのは「あり」なのである。

～ 出身地? ～

れいわ狸

さて、千刈の狸の皆様の認識はどうだろう。ご自分は、あるいは奥さん、ご家族は出身地をどのようになっているだろうか。

不肖狸も若いときは転勤族で、このテーマに思い出がある。東京にいるときに娘が生まれた。今と同じ5月だった。初めての娘の出生届け、準備万端でいそいそと区役所に出しに行った。区役所の職員が笑顔で「おめでとうございます。」と言ってすんなり受理してくれるものと期待したら、足りない書類があると。しまったと思ったが、気を取り直して巣穴に取りに戻った。手伝いに来ていた義母が、「まあまあ、大変だねえ。」と労ってくれた。書類を掴んで急いで区役所にとって返した。件の職員が調べると、今度は印鑑が捺されていないと言った。近くにいた他の職員達がこっちを見たように思えた(ダメな狸一)。「ガッデム」と自分を罵りながら巣穴に戻った。逡巡しながらドアを開けた。義母が、「お帰り。ご苦労さん。大変だったね。」「そ、それが、今度はハンコが捺されてなくて、、、」。義母が一瞬あっけにとられた顔の後、お腹を抱えて笑った。妻もやって来て笑った。笑い転げる狸たちを尻目に、脱狸(兎)の如くもう一度区役所へ。届出カウンターに行くと言った職員達の動きが一瞬止まって、目を動かさないままこちらの様子を伺っているような気がした。しかし、さすがに三度目は合格だった。ほっとした。大仕事を成し遂げて嬉しかった。意気揚々と帰った。後ろでお役所の職員たちが笑っていたかも知れないがもう関係なかった。

時が過ぎ、娘の結婚式で、「新婦のご出身地は、東京で、、、。」と紹介されていた。土着の娘なのにチャッカリしたやつだ。まあいいが、陰に父狸の涙ぐましい努力があったことを忘れないで欲しいものだ。

さて、最後に残った「地元」は、住んでいる土地や勢力範囲の地域を意味すると記載されていた。例えば、政治家などが勢力基盤となっている出身地に帰る場合に、「地元に戻る」のように使用されるそうだ。したがって、単に実家のある生まれ育った土地に帰ることを「地元に戻る」というのは本来誤りで、「故郷へ帰る」と言うのが正しいらしい。「地元に戻る」、「故郷に戻る」どちらでもOK、令和の世は千刈の森を盛り立てる狸がもっと増えてほしいものである。